



2025年度 名桜大学 教員養成講座だより No.1

2025年7月29日(火)
 沖縄県名護市字為又1220-146
 名桜大学教員養成支援センター
 発行責任者
 教員養成講座担当 新城 敦

1. 2025年度 1次試験対策講座Ⅰ・Ⅱ

2025年度実施教員採用選考試験へ向けて、前半(10/25～2/28)のⅠ、後半(3/1～6/5)のⅡに分けて実施しました。今年度の1次対策講座Ⅰは2024年10月25日から2025年2月28日まで開講し、学生29人、一般14人、計43人が受講しました。1次対策講座Ⅱは2025年3月3日～6月8日まで開講し、学生17人、一般13人、計30人が受講しました。

科目等の内訳は以下の通りです。

表1 1次対策講座Ⅰ・Ⅱの講座受講者数

講座Ⅰ	受講者	英語	保健体育	養護教諭	小学校	国語	その他
学生	29	15	4	10	0	0	0
一般	14	2	0	3	5	3	1
合計	43	17	4	13	5	3	1
講座Ⅱ	受講者	英語	保健体育	養護教諭	小学校	国語	その他
学生	17	9	4	4	0	0	0
一般	13	1	0	4	4	3	1
合計	30	10	4	8	4	3	1

2. 2025年度実施教員候補者選考試験 2次対策講座

公立学校教員候補者選考第1次試験の実施が昨年度より繰り上がり、各自治体の試験日が大きく異なりました。今年度の第2次試験対策講座を6月26日より開始しました。開講式当初、21名の応募でしたが、沖縄県の一次の合格発表後に再募集を行い、追加で一般の受講生18名が応募し、合計39名となりました。

表2 2次対策講座受講者数

2次対策講座	受講者	小学校	養護教諭	中高英語	保健体育	中高国語	中高数学	美術
学生	13	0	2	7	4	0	0	0
一般	26	10	4	1	2	4	2	3
合計	39	10	6	8	6	4	2	3



開講式写真:センター長講話

◎自信をもって教壇に立てるか
 子供の教育を任せられるか
 対策・練習を怠らない

- 教員になりたいという強い意志を伝える
- 自分の長所・短所を知り活かす方法
- 自己PR文、面接等でぶれない姿勢を表現する

一緒に頑張りましょう!
 講師一同みなさんの健闘を祈っています!

開講式プレゼンの一部



2025年度 名桜大学 教員養成講座だより No.2

2025年10月3日(金)
 沖縄県名護市字為又 1220-146
 名桜大学教員養成支援センター
 発行責任者
 教員養成講座担当 新城 敦

2025年度 教員採用試験 41人合格!(名桜生 12人、一般 29人) 合格者の皆様、おめでとうございます!

2025年度実施の教員候補者選考試験の最終合格者は41人です。前年度より7名増えました。そのうち、名桜大学生(科目等履修生含む)は12人、一般が29人で過去最高だった昨年を更新しました。教員採用試験の倍率は、全国的に年々低下していますが、沖縄県は依然として全国でも高倍率となっています。その中でも中学校4.3倍、高校8.0倍、養護教諭は15.7倍という高倍率でした。また、本学の教員養成講座を受講し、1次合格した中学校国語5人、養護教諭4人が全員合格を果たしました。

これまで、ご指導、ご支援を頂きました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

表1 2025年度教員採用試験実施状況 合格者数及び合格率

合格率	名桜大生	一般受講者	合格者の教科
1次試験	15人(60.0%*) 15/25×100=60.0	6人(35.3%**) 6/17×100=35.3% (+25 計31人)	学生: 英語12人、保健体育3人 一般: 小学校12人、国語5人、数学2人 養護教諭4人、英語3人、保健体育2人、美術2人、特支2人
2次試験	11人(73.3%***) 8/15×100=53.3	28人(90.3%**) 28/31×100=90.3%	学生: 英語9人、保健体育3人 一般: 小学校11人、国語5人、数学2人 養護教諭4人、英語2人、保健体育2人、美術2人、特支1人

*名桜大生の合格率は、講座受講者で受験した学生に対する1次合格者の割合を表しています。

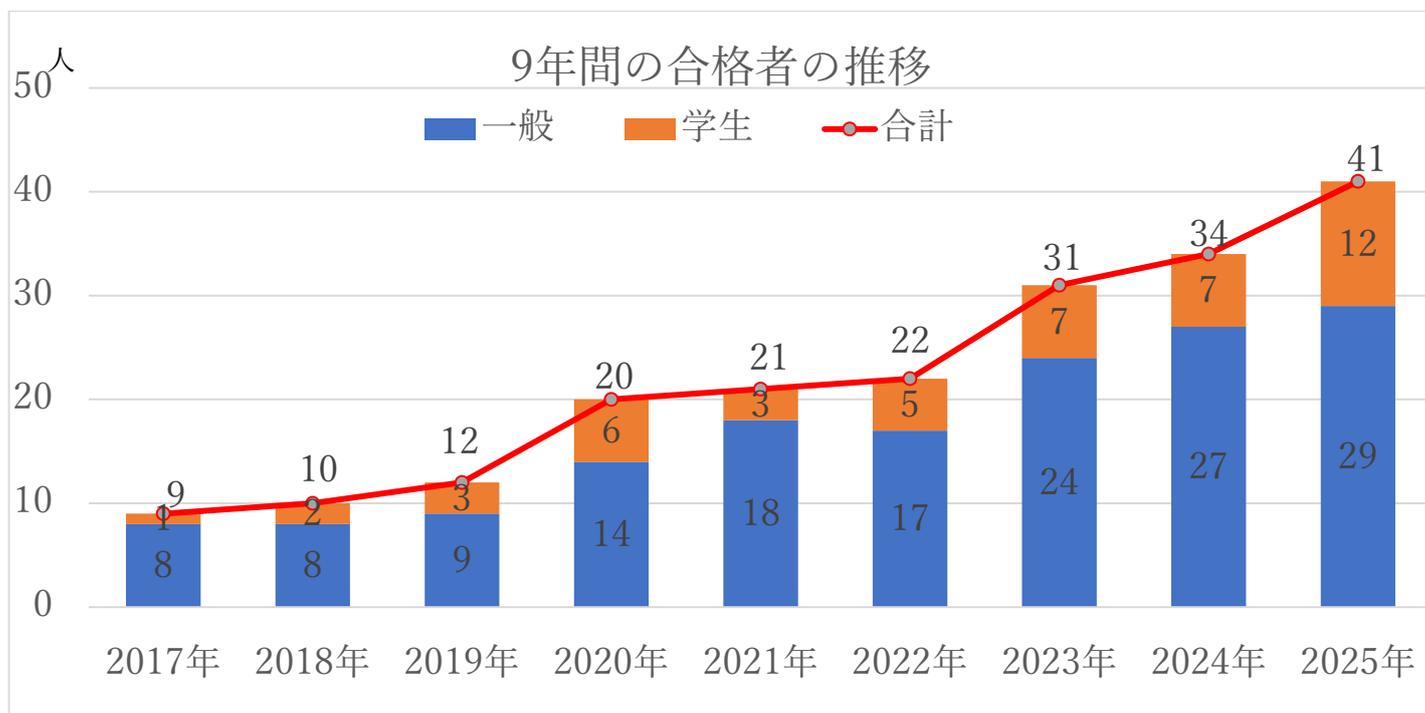
**一般の合格者6人は、1次対策講座からの受講者、+25は、2次対策講座からの講座受講一般受講者は、2次対策講座からの受講者も、1次合格者に含めています。

***2次試験合格率=2次合格者数/1次合格者数×100

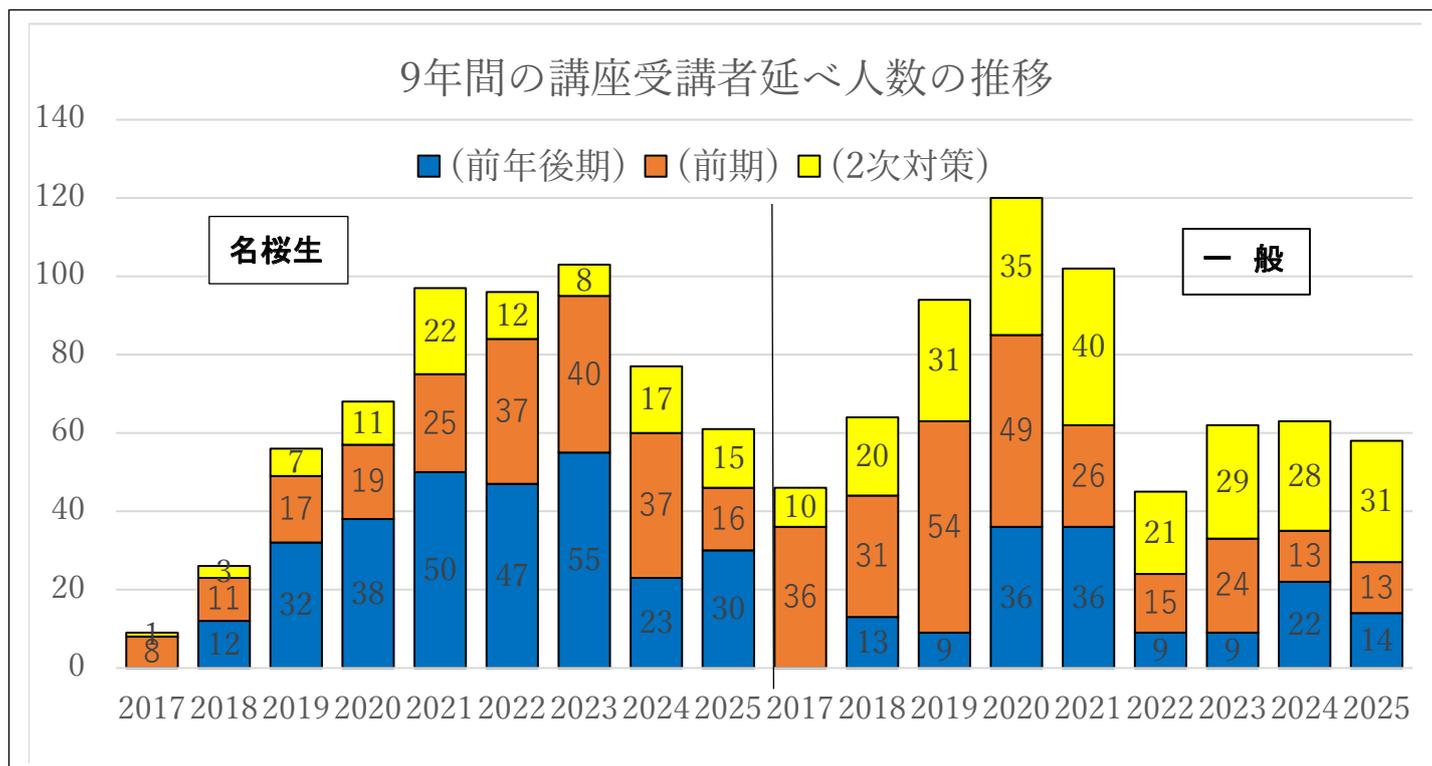
表2 教員採用試験合格者数の9年間の推移・合計

		2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
1次試験合格者	名桜生	1	5	10	9	10	9	11	14	16	85
	一般	10	10	12	16	20	20	27	27	32	174
	合計	11	15	22	25	30	29	38	41	48	259
最終合格者	名桜生	1	2	3	7	4	5	7	9	12	50
	一般	8	8	9	13	17	17	24	25	29	150
	合計	9	10	12	20	21	22	31	34	41	200
北部出身合格者		8	9	10	14	18	17	24	27	27	154

※名桜大学現役生・北部一般受験生の合格者の推移



上記のグラフは北部教員養成講座が開講して9年間の名桜大生と北部出身の一般の教員採用選考試験の合格者の推移です。合格者の傾向として、最後まで継続して講座に取り組んだ方の合格率が大変高いです。



上記のグラフは、今年度の教員採用試験へ向けて昨年の11月から2月までの一次対策講座Ⅰ、3月から6月までの一次対策講座Ⅱまでの受講生の延べ人数です。年々教員の希望者が減少している中、名桜生も例外ではなく2023年をピークに受講者が減少していますが、現役での合格者は上昇傾向にあり、真剣に現役合格を目指し、頑張っている姿がうかがえます。また、一般については、補充経験3年以上から一次試験の一部免除が適用され、専門教養のみの受講や2次対策講座からの受講が増加しており、2次試験での面接指導や模擬授業の指導助言等で本講座を活用することで合格者の伸びに繋がっています。



2025年度 名桜大学 教員養成講座だより NO.3

2025年10月24日
名桜大学教員養成
支援センター
教員養成講座担当 新城 敦

名桜生の為の教員養成講座(入門編)を実施しました!

教員養成講座をまだ受講していない1~2年生の名桜大生の為に10月14日~10月23日まで『教員養成講座(入門編)』を実施しました。全国的に教員志望者が減り、採用試験の倍率も年々低下しており、3年生からの前倒し受験を実施している自治体も増加してきました。本学では、教員は魅力的でやりがいがある一生の仕事として目指してもらい、教員採用試験の勉強の仕方や今後、本格的に教員養成講座受講へ向けてのステップとして実施しています。

今年度の取り組みとして、3回の講座を行いました。第1回目は、教員養成講座担当から①教師としての使命感、各自治体の求める教師像、年々教員採用試験の実施時期が早まることや大学推薦制度の周知、一般・教職教養、専門教養の勉強の仕方、これまでの教員養成講座を受講した先輩方の合格実績等、多岐にわたる内容を伝達し、学生にとって現役合格を目指すきっかけになったと思います。

第2回目は「教師の働き方とキャリア形成」のタイトルで教師のやりがいや魅力を自己の経験や教員採用対策講座担当として教師を志す学生に伝えています。内容は、生徒の成長に大きく影響する教師の沢山のやりがいを例示したり、公務員としての教師の給与、ステータス、将来の年金等、キャリア形成にかかわる内容に加え、臨時的任用と本務の違い、教員採用試験に向けた学習効果の法則等について伝えています。

第3回目は、前半一般・教職教養のミニ模試を行い、その後解答・解説を行い本番の「教員養成講座」を体験してもらいました。さらに、中・高英語、中・高保健体育、養護教諭、中高社会・情報の実際の教員採用選考試験問題を配布し、現役合格に向けて早期から取り組み、夢は必ずかなうと激励し「名桜生の為の教員養成講座(入門編)」を終了しました。以上3回の入門編を実施しましたが、今年度は現役合格者が12名に達し、70名の応募がありました。



第1回 講座(入門編)

表1 2025 入門編の申込状況

受験種	人数
中・高英語	20人
中・高保健体育	23人
養護教諭	21人
高校情報・社会	4人・2人
合計	70人

教員養成講座(入門編)アンケートから

スライド1「教師の働き方とキャリア形成」

4 最後に

- ・人生100年時代を迎え、「教師」という職業を一生の仕事にするために乗り越えないといけない道が「採用試験」である。
- ・ブラックと言われた教員も「教員の働き方改革の推進」、「教員免許更新制の撤廃」、「部活動指導員の配置」、「給特法の改正」等、時代は我々教師にプラスに向かっていく。その為に、「今」何をなすべきか? 答えは一つ!
- ・研修に励み、自己研鑽を怠らず、安定的家庭生活のためにも精神的にも経済的にも「ゆとり」が大切!



- ・その為には、各自治体の「採用試験の合格」を目指す。

※給特法とは、公立の義務教育諸学校の教育職員の給与等に関する特別措置法。残業手当4%

- 教員採用試験についてあまりよくわかっていませんでしたが、今回の入門編で理解することができました。各自治体の要項や求める教師像をしっかり調べたいと思います。
- 私は出身地以外の地域の受験も考えているので、自分がどの方向へ行きたいのかもはっきり定める必要があると感じた。併願の場合の勉強の仕方や試験スケジュールについても情報収集をしっかり行う。
- 非常に意欲の高まる講座であったと感じています。しかし、それと同時に焦りも感じている。早め早めの行動を心がけて対策していきたい。最後まで高いモチベーションを持ち、頑張り続けることが大切なので、粘り強く頑張りたい。
- 採用試験に合格するためには、知識はもちろんの事、子どもに対する愛情や豊かな人間性を磨くことが大切と知った。



2025年度 名桜大学 教員養成講座だより No.4

2025年11月20日(木)
 沖縄県名護市字為又 1220-146
 名桜大学教員養成支援センター
 発行責任者
 教員養成講座担当 新城 敦

1. 2026 1次試験対策講座開講式

2026年度実施教員採用選考試験へ向けて、11月6日(木)開講式を行いました。2025年度実施の教員採用試験の合格者が12名、3年受験の1次試験合格者が数名するなど現役合格に向けての機運が高まり例年のない受講者数になりました。特に、2026年度の3年受験に臨む2年生の受講が多く、意欲が感じられます。

専門教養の小学校と中高国語については受講者数の減少で開講に至らず教職教養のみの受講者もいます。

1次対策講座の詳細と科目等の内訳は以下の表1の通りです。

講座の趣旨及び目的

教員養成講座は、北部地区の教職を志す者の教員候補者選考試験対策を行うことにより合格者を輩出し、北部地区における教員の人材確保及び定着を図り、児童生徒の学力向上に資することを目的とする。

講座実施日

教職教養 週2日(火曜日、木曜日)

専門教養 週2日(月曜日:中高保健体育、水曜日(中高英語・養護教諭))

対象

名桜大学学生及び北部12市町村内に籍を有する方を優先とし、北部地区で補充を行っている方も受講可能とする。

実施期間

令和7年11月6日(木)～令和8年3月19日(木)

表1 2026 1次対策講座の講座受講者数

講座	受講者	英語	保健体育	養護教諭	小学校	情報・社会	その他
学生3年以上	37	12	11	8	1	5	0
学生2年	39	13	9	13	1	3	0
一般	12	2	1	5	1	0	3
合計	88	27	21	26	3	8	3

開講式写真



2026 1次対策講座は名桜生の受講者数が大幅に増えました。これもひとえに今年度現役で合格した皆さんの頑張りに大いに刺激を受けたものと思われまます。

11/6の開講式において7名の合格者の採用試験の勉強方法の報告をしてもらいました。発表後の質疑応答も白熱し時間の経過も忘れる程でした。合格に向けた実践の中からいくつか抜粋します。

合格体験報告(小学校)

小学校(特支) 宮城佐和子

私は教員採用試験を7回受けました。これまでの臨任の経験はとっても大事な経験にもなりました。なので、「この年で決める!合格する!」といった約束を自分自身とすることが大切なのかなと思います。これまではずっと倍率が高いから・・・と勉強しながらも落ちる理由を探している自分がいました。でも、臨任の教師を続けていく中で“やっぱり自分は教員採用試験に合格したい”と強く思うようになり、勉強し続けました。やるタイミングってとっても大切だし、自分自身でしか決められない。だからこそ、自分を信じて一歩を踏み出すことが大切なのかなと思います。応援しています。

それから講座の先生方には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

教員採用試験合格勉強法

中学校英語(鹿児島県) 和田英龍

私は、1次試験の対策を進める上で、まず初めに教職・一般教養、専門教養の過去問を解きました(時間を測りながら)。過去問を解くことで、出題形式や問題の傾向、時間配分を事前に確認し、今後の学習を効率的に進めていくための計画を立てることができました。実際、鹿児島県の専門教養では、「選択式ではなく記述式」、「教育に関する英作文問題がある」といった特徴が見られたので、それらに合わせた学習方法をとることができました。

【教職教養】参考書を用いて大まかに内容をつかんでから、講座に通うようにしていました。そうすることで、復習にかかる時間を大幅に削らすことができるため、学習効率やモチベーションの向上につながりました。

【専門教養】4技能を総合的に向上させるため、「参考書」シリーズ・速読英単語／英熟語を用いて、計画的に学習に取り組みました。鹿児島県は、2級～準1級程度の単語や文法をベースとして、速読力や長文解釈能力が試される試験内容であったため、何度もシャドーイングによる音読を行いました。また、教育に関する英作文対策のために、「参考書」シリーズの英作文の模範解答などを何度も読み込んだり、広いテーマで使えるような表現などをまとめたりしました。この英作文対策は、2次試験の英語討論においても同様のテーマが出されることが多かったため、2次試験の際にも非常に役立ちました。

私の勉強法

中学校英語(北九州市) 池堂彩音

(1) 1次試験：①教職教養＋②専門教養(英語)

①教職教養

教材：講座の配布資料、

教職教養の要点整理(時事通信社)

学習方法：

①講座にて問題演習

②間違えたところ・疑問に思うところ等をノートに整理し、理解を深める

③再度、同じ問題を解く

②専門教養(英語)

教材：講座の配布資料、単語帳、

学習方法：

①講座にて問題演習(リーディング・リスニング)

②単語を調べ、内容理解に努める

③類似問題を解く

・リスニングに関しては、英語版ニュース(BBC等、自分がやりやすいもの)のシャドーイングをするように努めました。



受験に向けたアドバイス

中学校保健体育(鹿児島県) 兒玉大成

勉強をするにしても、何をどのように勉強をしたらよいのかわからず、何も手をつけられない状態が最も良くありません。まずは受験する自治体について情報を集め、全体の流れを掴むことから始めると良いと思います。対策を早いうちから取り組んでおいて損することはありません。まだ取りかかれていない人はまずは過去問を買ってみる、過去問を答え見ながらでいいからながめてみるなど、何でも構いませんので今日から取り組んでみてください。本当に合格したいならするはずです。それは自分自身が一番わかっているはず。自分の将来像を思い描きながら勉強に取り組んでみてください。また、ある程度教採が近づいてくると、「勉強をしなくちゃ。」と焦りを感じることもあるかもしれませんが、焦ったところで時は刻一刻と過ぎていくので、今行っている勉強に真剣に向き合ってください。今解いている問題が、復習しているその一文が本番で出題されるかもと思うと、身が引き締まると思います。最後に、切磋琢磨し合あえる環境に感謝しましょう。悔いのない教員採用試験になるよう、皆さんのことを応援しています。

2025 年度 校種間連携「算数・数学教育研修会」報告書

2026年1月30日(金)、名護高等学校附属桜中学校において、「校種間連携 算数・数学教育研修会」を開催しました。本研修会は、名桜大学教員養成支援センター主催で、校種を超えて教員が集い、地域の課題について情報交換を行い、教員自らが授業づくりに活かすことを目指した授業力アップの場を提供することをねらいとしています。

今回は伊江村立伊江中学校の数学アドバイザー事業と連携し、「中学校の数学授業研究」をテーマに、授業観察及びその振り返りの研修会を実施しました。参加者は小・中・高等学校、教育委員会等の教員や指導主事等、名桜大学から教員及び3名の名桜大学生も参加し、16名で授業観察を行いました。授業は桜中学校2年生を対象に、講師を伊波寿光伊江中学校校長が務めました。伊江中学校は桜中学校と連携し、今回は4回目の研究授業ということでした。

講師の伊波校長は、教諭時代から積極的に数学の研究授業を行い、現在も精力的に率先垂範の授業づくりの研究を推進していらっしゃいます。その姿勢は教員にとって何よりの刺激になると思います。

授業後は、参加者の間で活発な意見交換が行なわれ、今後活かせる貴重な学びの機会となりました。

★生徒の振り返りには、無理数を視覚化できた喜び、驚き、今後の発展への期待等様々なコメントが在りました。

○ \sqrt{n} を数直線で表すことができるということを初めて知りました。三平方の定理は \sqrt{n} を視覚化できる場合があるすごい定理だと思いました。別のことに応用できそうで楽しみです。

○数学の図形は、特にできないと思っている問題が出てくるけれど、意外と簡単に解ける問題があると思った。気づくためには、やっぱりいろんな問題をコツコツと解くことが大切だと実感した。

○このように発展内容でも基礎がわかれば何とか解ける。

○問題を解いたり、解説を聞いていたら今までに学んだことを使えばちゃんと数直線上に表すことができた。

○今まで習った既習事項を使って、難しい問題でも解けるように頑張りたい。

○三平方の定理が紀元前からあるなんて驚きました。エジプトの人すごい！

○ $\sqrt{3}$ と $\sqrt{5}$ を図形で表すことができ、問題を解くことができた。また、他の問題もしっかり解けたので、スッキリした。

$\sqrt{\quad}$ なのに数直線に表せることができたので、何か不思議に感じた。そして、課題3も頑張ります！



★★★ 写真で見る授業の様子 ★★★

★ 研修会後の参加者の意見交換の様子をアンケートの結果も含めてご紹介いたします。

1. 授業者の振り返り

- 桜中学校のこのクラスでの授業は 4 回目です。ですから桜中学校の生徒達とのラポートはしっかり取れています。前は伊江中学校の生徒と一緒に授業を受けてもらいましたが、今回は残念ながらインフルエンザで学級閉鎖となり参加できませんでした。生徒も今日はどんなワクワクした授業をしてくれるだろうかと楽しみにしていたと思います。
- 授業の内容は、中学 3 年生で扱う「分母の有利化」ですが、桜中学校では、2 年生で実施しています。本時のねらいは、単に有利化の計算をするというのではなく、「なぜ有利化する必要があるのかを考えさせる」ことでした。分母に有理数を含む値を数直線で表してみようというのが本日の授業内容でした。
- みんな一生懸命考えて、工夫していることが分かり、よく頑張っていました。時間がなく、一番伝えたかった最後の「課題 3」ができなかったことは残念でした。

2. 本時の授業の意見交換

- 多くの教員にこのような深い学びを促す「考えさせる授業づくり」を体験して欲しかったです。驚きを体験させる授業でした。
- 生徒のつぶやきに、ああ～そういうこと、なるほどという声が至る所であった。
- どこでこまらせるか（そこが教材研究）⇒ うまく困らせる ⇒ 理解の実感・量感 ⇒ 定着しやすくなる
- $\sqrt{2}$ や $\sqrt{3}$ 、 \sqrt{n} を数直線上にコンパスを使って表すことは数の感覚を養う上で大切であると思う。今日の授業は、その意味でとても良かった。生徒も頑張っていた。
- 「思考を促す問題の提示」はとても重要であり、すぐには答えが見つからず思考錯誤しながら考える授業づくりが必要である。これが「ワクワクする授業」だと思う。
- 計算方法を教え込むだけの授業ではなく、「なぜ $\sqrt{2}$ が生まれたのか」「コンパスを使う」「面積図を使って」「歴史」「実生活とのつながり」などを関連させているところを小学校の算数の授業でも活かしていける。
- 数学を学び続ける寿光校長のすごさ。生徒をワクワクさせる教材を見つける、つくる。
学び合いの雰囲気や教材の工夫、を改めて頑張っていきたいと思いました
- 桜中の生徒が積極的に話し合いに参加し、意見に自信がなくても前に出てきちんと発表していたところが印象に残った。
- 教員がしっかり説明をしなければいけない場面と生徒に考えさせる時間配分は重要だと思います。しかし、今日の授業では、時間がなくても急がず、しっかり子どもたちに考えさせ、説明も生徒に求めたところが最もよかったと思います

3. 今回の研修で学んだこと、印象に残ったこと、活用策、感想や意見など

- 振り返りを書き終わって、また問題に戻って自主的に解き続けている子もいた。
- 教師の勉強・研究が授業に活きるという例を見ることができた。
- 生徒が悩みながら、対話を通して解いているのがとても良かった。
- 学ぶ必要性、それをやる必要性を感じさせたこと。
- 既習事項から使えそうだと課題設定
- 式を読むことの大切さ、式が何を表しているか分からない生徒が多い。
- 予測する姿、まずはこれくらいかな？ その感覚は大事
- 既習事項を再確認する場面（グループ内）、必要性
- 数学人であること 教材研究が根っこ
- 授業の際にディスカッションを取り入れる



4. 現在授業を進めるにあたって悩んでいることや共有したいこと

- ①思考させる発問、1 時間いきいきと数学に取り組ませる準備について
- ②授業内で、質と量の両立をはかる難しさを感じています。
- ③算数とはいえ、数学的な見方・考え方を働かせる授業が必要だと考えておりますが、見方・考え方を育むための授業を行っていても、知識技能の定着がやはり個人差や児童個々の能力にばらつきがあります。見方・考え方を育みつつ、知識技能の定着も図るような授業はどのように行えばよいのか日々悩んでおります。

<意見交換>

- これが今回の情報交換の大きなテーマだと感じました。今回は、中学校における数学の探求学習でした。毎回このような授業をできるわけではありませんが、できる範囲で実践することが生徒の深い学びに繋がると思います。
- 講師の伊波校長は、「日常生活で使える教材がないか日々考えて授業づくりに活かしています。」というアドバイスがありました。こういう姿勢こそが教員にとって、刺激になったのではないかと感じました。
- 今日のような授業づくりを研究する姿勢が重要である。授業を進めるにあたって自身が困っているという上記情報①②③を提供して下さった先生方の熱心さにも同感のうなづきが多く寄せられました。だからこそこのような研究会に参加し刺激をもらうことが大事だと改めて思いました。
- 知識技能の定着は必要であり、知識が不十分な生徒へのフォローは教員の観察力と支援が不可欠だと感じている。
- 考えさせる探求学習を通して知識を得ることもあるのではないかという意見もありました。
- 確かにそうであり、だからこそ教員が画一的ではなく、生徒一人一人に寄り添った支援を観察する力が授業力の一つではないかと考えました。
- 考えさせる授業づくりも重要であるが、ドリル学習で知識を獲得し、定着させる指導も重要であるという意見もありました。
- 全国学力・学習状況調査結果より、「ICT を活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学び」は、名護市は小・中ともに全国平均を上回っています。これはやはり先生方の授業の工夫の成果だと高く評価できます。一方で学力の落ち込みが大きいのは、学習習慣が全国平均と比べて低いという調査結果からも課題が分かりました。学習習慣は、単に家庭の問題だけではなく、児童生徒がもっと頑張ろうと思える授業が必要だと思われます。学習の定着度には個人差があることを知らせた上で、生徒だけではなく、保護者にも子どもの学びを理解させることが重要だと思います。生徒にやる気を起こさせるのは、「今日の授業はしっかり考えてわかった。楽しかった。次の問題もやってみよう」という先生方の授業にかかっていると思います。だからこそ、教員も他の教員と連携して子どものやる気を育てる授業づくりに励むことが大切だと思います。

5. 今後の研修への要望について

- 授業でも研修でも数学に関するものはやって欲しい。
- 今回のように数学の意味、意義、それを扱う授業をみんなで見て意見交換をしたいです。



授業での発表の様子



グループワークの様子 コンパスを動かしながらの話し合い

昨今は教職員の多忙化の課題もあり、研修会の開催が難しい状況ですが、「任意研修で調整も難しいと思いますが、とても有意義な研修でした。ありがとうございました。」というコメントもいただきました。やはり学びの場は必要だと感じました。参加者からはいつも肯定的な回答をいただきます。今後も可能な範囲で研修会が開催できることを願っています。

参加者の皆様、貴重なご意見をお寄せくださいました皆様に、心よりお礼を申し上げます。

参加者：15人（小学校2人、中学校5人、高校1人、教育委員会3人、名桜大学1人、学生3人）

報告 2026年2月3日（火） 高安美智子（リベラルアーツ機構特任教授）

2025 年度 校種間連携 英語教育研修会

2026（令和8）年2月19日（木）、名桜大学本館講義室4にて「校種間連携 英語教育研修会」を開催しました。

講師を務めたケムロイ氏は、南アフリカ共和国の出身で、2012年8月より、文科省JETプログラムにおいて、ALTとして来日、その後、名護市教育委員会のALTとして、北部各地の小学校、中学校で英語教育に従事し、教育現場で実際に北部地域の英語教育の現状また課題を見出しています。2024年から、名桜大学にて助教として、リベラルアーツ機構の全学英語教養教育科目を担当しています。広い研究領域の中で、現在は、特に通常の授業に対する教材作成について研究し、論文も多数書いています。

今回の研修会は、前半は communicative activities(コミュニケーション活動)についての理論、後半は、この理論に基づいた実践活動で構成されていました。まずは、“communicative”とは何かの問いから始まりました。近年、英語教育現場で最も話題になっているキーワードですが、間違った認識も多いのが現状です。ケムロイ氏は、①意味のやり取りがある②情報のギャップがある③その成果は言語そのものではないと3点の要素を上げ、“communicative”をより明確にしました。さらに、ケム氏は、その communicative activities(コミュニケーション活動)を、現在広く用いられているPPP(Present 導入 Practice 練習, Produce 産出)モデルの産出のステージでの導入を推奨し、communicative activities の創出の際に不可欠な観点となるLTGG Framework という理論枠組みを提示されました。それは、Language, Task, Gap, Goal の4つで、教師はこの4つの観点を明確にして、コミュニケーション活動を創出することが重要であるということでした。その後、参加者は、各グループで、その理論に基づいて創出されたケム氏作の communicative activities の例を体験し、また新しい活動を LTGG Framework の観点で創出し、それを、違うグループで共有する機会がありました。このセミナーでは、理論と実践の両方がバランスよく提供されていました。まさに、“communicative”なセミナーで、上記①②③の要素をみだし、終始、活気があり和気あいあいとした雰囲気、終了後も、ケム氏や参加者同士で話合いは続いていたようでした。学び、共有する場は、これからも必要だということを実感しました。

〈今回の研修で得た成果や活用策について〉

- ・実際に活動に参加しながら、どんな言語活動が良いのか気づきながら学べたのが良かった。
- ・対面式で楽しかった。もっと、参加者がいたらよかった。英語科に情報を提供したいです。
- ・ learning and brush up opportunity. needed more time for lecturer and activities
- ・ Trying different communicative activities was very helpful（様々なコミュニケーション活動を試すことは非常に役に立った。） The sample activities and the activity we came up with
- ・実際に教員として働いている方々のお話が聞けたことや、ロイ先生の講義を受講できたことで、さらに沖縄県における英語の授業をよりよいものにしたいと考えることができた点。4つの視点から目的を明確にした意味のある授業を作ろうと考えられたところが活かせそうです。
- ・ コミュニケーション活動へのアイデアを授業で使いたいです
- ・ただ楽しい、競争してワイワイするばかりのアクティビティから、学びがあり、もっと学びたい、知りたいと意欲向上に繋がる communicative activity はすぐに活かせそうです。
- ・グループの交流活動は素晴らしかった。コミュニケーション活動のLTGGのギャップとゴールを知ることができよかった。

・他の先生と交流して、実際の生徒を思い浮かべて Activity を考えたところ。Communicative activity とは何かを考えられたところ。

・Communicative の LTGG の説明やワークショップがすごくよかった。自分の授業で Talk time は入れているが Goal を設定していなかったことに気づかされた。

・実践があったこと。お互いのアイデアを共有する時間が十分に取られていたこと。毎時の活動も単元のゴールも LTGG を意識して設定することで授業が変わってくると思った。

・ギャップを使い、相手にどのように伝えるのか、ゴールは何なのかを考えることで面白いアクティビティを作れると思いました。完璧を目指すのではなく、過程が大切だと分かったので、気楽な授業にできると思いました。

・実践が多くよかった。Communicative な活動にするにはのアイデアが湧いてきた。

〈今回の研修会で学んだこと、印象に残ったこと〉

・講義形式ではなく、実際 体験できてよかったです

・言語活動の質の向上に繋がるすばらしい内容です。実際に活動することでその価値を実感して、楽しく学べました。

・2年間特別支援で英語から離れていたもので、刺激になりました。

・attention to communication

・教科書に沿った授業だけでなく、communicative な講義を目指すこと。しかし、生徒がどのようになることを目指すのか、教科書などの tool も用いて考えることが必要だという点が学びでした。まずは生徒が楽しめることが大切なので、その中で英語が tool となり、文法や発音など自然に学べるような授業が理想なのかなと感じました。

・LTGG のフレームワークを学ぶことは有益だった。

・Goal の捉え方、考え方。ALT も参加できてよかった。

・伝わればその発音は correct. I think so,

・中学校の教科書をもとに教材作りをしてとても勉強になりました。小学校の学習がどのように中学校へつながっていくのかをもっと知るべきだと思いました。

・これまで知識としては学びましたが、実践で学んだのは初めてだったのでよくわかることができとてもよかったです。高校や中学校でできるように工夫は必要ですが、それでも良い授業につながると思いました。

LTGG はかなり作るのに大変ですが、がんばって活用したいです。

・先生が一生懸命でグループでディスカッションできた。

〈今後の研修への要望〉

・いろんな研修でいいアイデアをたくさんもらえます。教材を作成する時間を確保するのが難しいです。参加した私たちがすぐ使えるように提供してもらえたら嬉しいです

・今後、小中の授業改善に役立つ研修や支援を望みます。引き継ぎお力をかしてください。

・もっと、英語科に広めたいと思いました。コミュニケーションが苦手な生徒への英語授業に困っています。特支でどのような教育をしているかの研修もあつたらいいな。

・thank you for the effort

・Differentiation ・もうないのは悲しいです！これからも、先生方や学生が集まり、最適な授業を模索し、それを実践してみるというような機会があると嬉しいです。

- ・より多くのコミュニケーション活動のワークショップは素晴らしいでしょう。
- ・実践的（このような）活動を考える研修がもっとあるとよいと思います。
- ・教材作りのワークショップしたいです。



（Communicative activity の様子）



（講師:ケム・ロイ氏 名桜大学 助教）

教員養成支援センターは、北部の英語教育の課題について名護市教育委員会の指導主事のアドバイスを受け、その協力のもと研修会を開催しました。

受講者の声からもわかるように充実した研修会でした。今回の研修での学びを自身の授業改善にぜひ活かしていただきたいと思います。

参加者：16人（小学校2人、中学校4人、ALT3人、名桜生2人、指導主事1人、名桜大教職員4人）

（報告 2026年2月24日 教員養成支援センター副センター長 久高利美子）

*講話の内容報告についてはリベラルアーツ機構田原貴子先生の協力を得ました。